

水俣市におけるごみの22分別を体験して

作成者：3年中山英信、M1 工藤康太、江島智彦

概要：09年1月20日(火)熊本県水俣市の環境クリーンセンターに行き、現地の方々と一緒にゴミの分別を体験させていただいた。水俣市はゴミの分別が22種類と非常に細かく決められている。
今回、水俣市と熊本大学のゴミの分別を比較した。



①水俣市

資源になるもの						破碎・埋立・焼却処理		
びん類		空き缶	10.布類	紙類	有害	18.廃プラスチック類	21.破碎埋立	22.粗大
1.生きびん	雑びん	7.スチール缶	11.電気コード類	13.新聞・チラシ	16.電池類	19.生ごみ		
	2.透明							
	3.水色	8.アルミ缶	12.ペットボトル	14.ダンボール	17.蛍光管電球類	20.燃やすもの		
	4.茶色							
	5.緑色							
6.黒色	9.なべ・釜類	15.雑誌・その他						

②熊本大学

資源になるもの						埋立・焼却処理	
1.びん類	空き缶	4.ペットボトル	紙類	有害	9.廃プラスチック類	11.埋立	12.粗大
	2.スチール缶		5.新聞・チラシ雑誌	7.電池類			
	3.アルミ缶		6.ダンボール	8.蛍光管電球類			

結果：学内でも家庭と比べると、かなり細かくゴミの分別されていますが、水俣市はさらに細かくゴミを分別しており、住民の方とのふれあいから、水俣市全体がゴミ問題に対して真剣に取り組んでいることがよくわかりました。

～感想～

今回の水俣市クリーンセンターの訪問は、環境に対する考え方というものを改めて見直すきっかけとなりました。水俣市の人々は熊本市に住んでいる私たちには、考えられないくらい細かく、22種類にごみを分別していました。当番の方がおられてそれは1年単位で回す、当番をやりたい場合は続けてよく、4～5年続けてやっておられる方もいらっしゃるそうです。ごみ分別という作業は環境に対して良い効果を生むばかりではなく、ヒトとヒトとの繋がりにも良い効果を生むのではないかと、この地域の皆さんと一緒に作業をしながら、感じました。また、納豆が入っていたパック容器もきれいに洗って干し、廃プラスチック・食品トレイに分別することには衝撃を受けました。さらに、お菓子の箱と袋は別にして、袋は洗って開いて乾燥させるととても手間のかかることを日常的にしているなんて私には真似はできません。人々は心がけさえすればこれほどまでに変わることができるのだと思いました。熊本市内の分別と比べると一目瞭然であり、熊本市内の人々全員がそうではないにしても、ゴミに対する心掛けが大きく違うと思いました。自分も微力ながらこのような自然に対する心掛けを持っていきたいと思っています。熊本市ももう少し分別の種類を増やした方がいいと思います。しかし、一方で熊本市のごみ回収日程と比べて不便だと感じたのは紙類の回収が月2回しかない(熊本市は毎週)など回収する回数が少ないということです。今回の体験で私自身が「ゴミ=捨てるもの」と一緒にくたにし、如何に環境への配慮が欠けていたかを振り返るよい機会になりました。

水俣市のように22種類までとはいかなくても、学内での分別をきっちりと行うだけでなく、万が一分別を間違ったらどうなるかを予測し考えながら処理していきたいです。自分たちの周りの環境に対する姿勢がとても高く、公害の経験が生かされていると感じました。面倒くさがってゴミの分別を怠ると、分別し回収する側の立場の人にとってどれだけ迷惑がかかるかということをもっと体験できました。

